

南飛驒 ぼうさい かわら 版

目次

- P-2 ・ 親学び講座 ・ 御嶽山火山学習会
- P-3 ・ 市内小中学校で弾道ミサイル避難訓練
- P-4 ・ おらんとこの自主防災(少ヶ野区)

下呂市防災士会

検索



本誌は下呂市ホームページでも
ご覧になれます。

下呂市防災士資質向上研修会 （H29.11月22日 主催下呂市防災士会 共催下呂市）

「私達が目指す“地域防災”を実現するために」・地域防災に対する防災士の在り方・と題して研修会が下呂市民会館で行われました。中島会長は「今までに災害の経験をした事がなく過ごしてきたが、今後何事も無いとは思えない。巨大地震が懸念されており阿寺断層が連動する事も考えられる。我々防災士は自助に努力し、地域の防災に精進されたい」と挨拶しました。村山副市長は「大きな災害が起きた場合は、公助が機能するには時間が掛かります。防災士の皆様は重要な位置付けであり、行政は大いに期待をします」と挨拶をされました。

基調講演は岐阜大学・地域減災研究センターの特任准教授村岡治道先生をお招きして行われました。スクリーンの脇に立って指さしながらの独特の講義スタイルで、檀上の193cmの長身から話されるやや関西なまりの力強い語り口と、村岡先生ならではの目線での防災講話に約80名の防災士・市職員らが真剣に耳を傾け、盛んにメモを取っていました。



「講話前半抜粋」

- ・ 防災に取り組む目的は何か？（手に入れたい結果と、手に入れたくない結果を理解すべき）
- ・ 防災に必要なヒト、モノ、コトは何か？（防災にオールマイティはなし、それぞれの分野で..）
- ・ 防災を行うタイミングは何時か？（災いを防ぐに相応しいタイミングとは？）

【事前の備え⇒最重要である】【間一髪の間際⇒タイミングを讀めるか！間に合うか！】

【発災まただ中⇒命を守る判断と行動は成功率100%か！】

【発災後⇒防災を失敗した敗戦処理にすぎない！地震防災の避難所まっしぐらは間違い！】

- ・ 防災をいつまでに行うのか、いつまで続けるのか？（今すぐに始める！そして継続する！）

自助100%我が身・家族を守り切って、避難所へ行かなくて済むようにするのが防災！

（第3回）親学び講座 「子育て家庭の防災」～大切なものをまもるために～ H29.10月27日（金）

子育て世代を対象にした防災講座が市民活動推進課の主催で、星雲会館で行われました。

講師のみちのく結心会五十嵐浩子さんは、福島県浪江町で被災され高山へ移住して3人の子育てをしながら自身の体験をもとに、災害に対する事前の備えの大切さを地域の人達に伝えようと各地で講演活動をしておられます。大切な家族を守るための知恵として、子供達に親の電話番号を覚えておく・家の備えは1ヶ月分・非常持出し品は家族一人ひとりに用意すること・複数パターンの避難先候補を決めておく・寝室には家具を置かない、など被災経験者ならではの講話でした。非常用リュックサックやスーツケースに入れた自宅用の非常備品の数々を展示されて、参加されたお母さんたちは講演後興味深く見入ってそれぞれ質問を投げかけていました。乳幼児を同伴した参加者には別室で託児の用意がしてあり、お母さんたちは安心して講座に集中することが出来たと好評でした。

**「御嶽山火山防災学習会・ワークショップ」 （H29.10月31日 下呂市民会館）**

平成27年から名古屋大学の主催で開かれており、火山防災の課題解決を探ることを目的として開催されました。前半は、下呂市防災会議委員でもある兵庫県立大学減災復興政策研究科の阪本真由美准教授による火山との共生をテーマとした講演がありました。講演の中では、御嶽山についての住民意識調査の結果が紹介され、御嶽山は地域の活性化に重要な存在であるが、火山としての御嶽山は地域に良くない影響があるという意見が多かったことが示されました。また、口永良部島の避難対応や有珠山の火山マイスター制度、桜島のビジターセンターなど火山地域における取組が紹介されました。噴火の被害を防ぐためには、子供への教育、避難訓練など住民の知識高揚が必要で火山と共生できる仕組み作りが大切であると話されました。

ワークショップでは、行政の防災担当者、気象台、警察、消防などの火山防災の地域関係者にくわえて、噴火当時実際に災害時の対応にあたった経験者を招いて噴火災害時の対応の振り返りを行いました。また、対応の課題を洗い出してその課題を解決するための地域での活動アイデアなどについて話し合いを行いました。

今後も火山地域関係者が顔を合わせて連携を強めて行くことが申し合わされました。



弾道ミサイルを想定した避難訓練

市内の8小学校と2中学校が10月から12月にかけて、県下では初めてとなる弾道ミサイルの発射を想定した避難訓練を行いました。計画中の学校もあり、授業の中で避難方法などを勉強するとの事です。下呂小学校(307人)は児童達に訓練開始時間を知らせない「ブラインド方式」で行い、休み時間に実施しました。校庭や教室でめいめいに遊んでいる最中に「ブービー」とJアラート音が鳴り響き、一斉に屋内に避難します。遊びに夢中で気付くのが遅れる児童もいましたが、ほ



早く中へ入って！

どなく全児童が窓から離れた場所でダンゴ虫のポーズで自分の身を守りました。

ミサイル通過の放送があり体育館へ移動し上級生は下級生を中心にして整列して校長先生や県の防災担当の人からお話を聞きました。地震防災の避難訓練と違い、屋内の安全な場所を理解していて良く出来と好評でした。教室に戻っての振り返りでは活発に手を挙げて発表していました。



体育館ステージ前の中央付近でダンゴ虫ポーズ

萩原北中学校(117名)は、お昼休みの終り間際にJアラートが鳴り響きました。

校庭にいた生徒達は素早く体育館や校舎へ避難します、教室・図書室・廊下などでシェイクアウトの姿勢で身を守ります。ミサイルが通過して全員が集まり避難状況などについて意見交換を行いました。近くにあった電話帳で頭を守った・トレーナーを頭から被った・体育館へ避難した生徒は緩帳にくるまったなど、シェイクアウトにも中学生らしいとっさの工夫がありました。

校長先生は数年前には考えられない訓練ですが、途中で落下したり・迷走することもあるので気を付けましょうなどとお話しされました。県の危機管理政策課の担当者からは映像を示して弾道ミサイルは爆風で色々な物が飛び散る、Jアラートが鳴ったら知らない人もいるので声掛けをしましょう、などと講習がありました。



電話帳やトレーナーで頭を覆います！



弾道ミサイルについて講義を受けます。

おらんとこの自主防災

（下呂・少ヶ野区 防災活動組織）

防災対策会議

構成員

- ・少ヶ野区役員
- ・少ヶ野消防団部長
- ・少ヶ野区消防後援団長
- ・大平会々長
- ・女性防火クラブ会長
- ・民生委員・児童委員

平常時は、区役員会が区内防災・福祉関連委員の協力を得て普及啓もうなどの活動を随時行い、大規模災害時又は恐れのある場合は防災対策会議へ移行する。

情報収集 避難等の指示伝達

町内会長

情報収集伝達・連携

市防災担当機関

情報班

区書記・会計
防災担当
消防団

巡視班

土木委員長
消防後援団
消防団

物資供給班

婦人会々長
女性防火クラブ
消防団

避難誘導班

交通安全委員長
婦人会・福祉委員
民生・児童委員
消防団

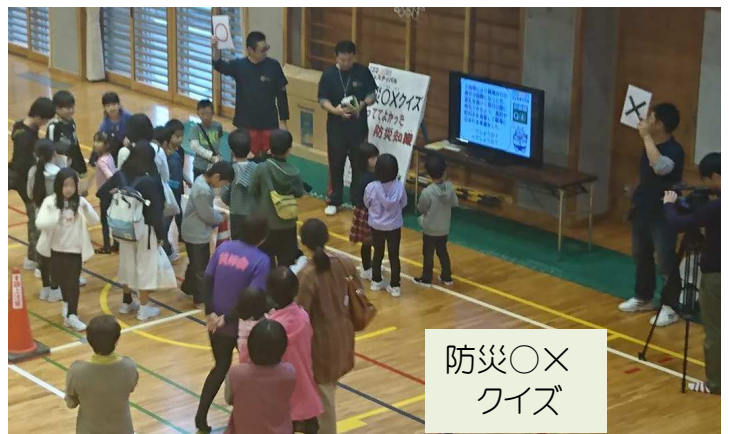
救出救護班

体育委員長
大平会
消防団

大平会が創立50周年記念事業として、平成29年10月29日に下呂小学校体育館で少ヶ野防災フェスティバルを行いました。100名余りの参加者があり、防災関連の体験やゲームなどで楽しく学びました。



簡易担架作り
搬送リレー



防災〇×
クイズ

【大平会】成人男子(43名)地区の奉仕団体。半数以上が40才代、少ヶ野地区のまちづくりを活動の目的として、地区の美化活動、龍神祭り、盆踊りなどの運営を行っています。

防災組織との関わりは、会長が対策会議の構成員で、救出救護班・消防団に属しています。フェスティバルは、災害現場写真展・防災グッズ展示・大声コンテスト・水消火器体験・煙体験・〇×クイズ・簡易担架作成搬送リレー・玉入れバケツリレー・非常食炊き出し訓練を行いました。



バケツリレー玉入れ

（編集後記）取材などで市内あちこちと伺いますが、どの地区でもアマチュア無線のアンテナが見られます。平成16年までは、旧各町村毎に役場や警察と協力してアマチュア無線家が災害を想定した情報を、各地から役場へ送信する非常通信訓練を行っていました。

下呂市防災計画にも非常時における通信網として、アマチュア局へ協力を要請すると記載してあります。当市でも災害時には、しっかりと行政とアマチュア無線局との協力体制を持ちたいものです。

☆小坂振興事務所は、小坂町時代に整備された無線機が運用可能です。（写真）



（掲載記事随時募集）E-mail tuneki-jh2oqm@seiryu.ne.jp ☎090-2578-1601 広報担当 金子恒紀